

# 全国精神保健職親会 2023 年度 実施事業報告

## 1. 日本財団助成事業（「事例からの学び」ワークショップの地域展開）

2020 年度から実施してきた「事例から学ぶワークショップ」事業の最終年度。本事業ではワークショップの開催を契機に、地域の就労支援ネットワーク形成に寄与することを目指して活動を行い、ネットワーク形成の進捗や成熟度に地域差があることが明らかとなった。最終年度は、自主運営可能な地域で活動活性化のための資金面でのバックアップを行う一方、事業趣旨の実現に協働できる団体等がある地域では、引き続き地域ニーズの掘り起こしや開拓を行う活動を行った。

### ■ 各事業実施地域の動向

事業実施地域	活動内容
宮城県	障害者就労・生活支援センターの連絡会機能に留まっていた「宮城就業支援ネットワーク」を再構築する活動に協力。開催研修会の会場費や登壇者謝金、ホームページの制作費や事務局の活動費などを資金面で支援。なお、新生「宮就ネット」は法人化の予定。
福島県	いわき市障がい者職親会が開催する「いわき地区障がい者就労支援セミナー」（2024/2/22）の共催団体として、会場費、広報費等を支援。なお、福島県ではいわき市障がい者職親会の取り組みを県内に水平展開し、他圏域でも同様の職親会組織の結成を目指す動きがあり、本事業ではその活動にも協力。
石川県	一般社団法人 Be カラフル を中心とする就労支援事業所を主幹として金沢市でワークショップを開催。地域の企業が障害者雇用の取り組みを始める契機づくりに寄与。 ● 2024/2/22 みんなが一緒に働く社会へ企業と障害者のワークショップ（金沢市）
京都府	過年度と同様、京都障害者雇用企業サポートセンターとの協働で以下のワークショップを開催 ● 2023/11/2 施設外就労を有効性を考えるワークショップ ● 2023/12/20 大学生インターンシップから考えるワークショップ
兵庫県	兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会（職親会）との共催で以下の研修会を開催 ● 2024/2/2 超短時間労働の取り組みと可能性
島根県浜田市	浜田圏域自立支援協議会 就労支援部会が主催する研修会に共催団体として協力 ● 2023/11/17 浜田・江津の障害者雇用を支えるネットワークに向けて（浜田市） ● 2024/3/19 上記のパートII（浜田市）
福岡県	過年度は福岡市と北九州市で各1回ずつワークショップを開催していたが、2023 年度は開催に至らず。しかし、北九州では圏域のネットワーク構築を模索する検討が継続しており、福岡市では事業協同組合算定特例の適用を前提とする組合結成の検討が行われている。
総括座談会	障害者雇用に関わる各分野のキーマンに登壇いただき、本事業の活動を総括する座談会を開催。当会HPにて録画公開、啓発機関誌「しごとMentor 6号」でも誌上再現。 登壇者：厚労省障害者雇用対策 課長 西澤栄晃 氏、NPO 法人大阪精神障害者就労支援ネットワーク 副理事長 金塚たかし氏、元・オムロン京都太陽株式会社 社長 三輪建夫氏、社会医療法人清和会西川病院理事長 林輝男 氏、ATU ホールディング株式会社 社長 岩崎龍太郎 氏 進行：NPO 法人全国精神保健職親会理事長 中川均

### ■ 制作物

- 啓発機関紙「しごとMentor」 6号
- ワorkshop開催レポートや講演動画を掲載する Web ページ

## 2. JKA 補助事業 (SPIS 普及啓発活動)

### 1. 就労支援におけるクラウド型支援ツールの活用に関する地域研修会の開催

- 一般公開研修会の開催 2回 開催、就労支援分野での外部研修会 発表 1回 (下表)
- 就労支援機関向け個別研修会の実施 2回

開催日	開催地	講座名	共催、後援、協力等
10月7日	京都市	アステップむろまち 実践報告会 テーマ「医療と企業の視点から見る就労」	外部研修会での発表
3月1日	茨木市	障害者は会社を変えることで戦力化できる！ あるひとつの労働生産性向上への SPIS の活用事例報告	共催：茨木市立障害者就労支援センターかしの木園
3月12日	京都市	SPIS 活用事例 ちょっと丁寧なマネジメントにより戦力につなげる・職場が変わる	協賛：京都障害者雇用企業サポートセンター

### 2. メンタルケアの向上につながる職場内コミュニケーションについて啓発する活動

- 産業保健分野や企業内での外部発表 2回(下表)
- 企業内個別研修会の実施 2回

開催日	開催地域	研修会名	発表内容
6月17日	石川県	金沢 EAP 研究会	メンタル不調者に対する SPIS の有効性
3月11日	京都府	太陽の家 企業会 講演	職場マネジメントにおける支援ツールの有効性について事例を交えて紹介、参加者と意見交換

### 3. クラウド型支援ツールにかかる啓発コンテンツの制作

- 「SPIS」の導入プロセスと運用例を紹介する動画の制作およびWeb公開
- SPIS 導入検討時や導入初期の FAQ 集の制作およびWeb公開
- SPIS を導入する雇用事業者と就労支援機関にヒアリング調査を行い、その結果を分析した啓発小冊子「活動成果の評価と今後の展開について」を印刷発行

### 4. クラウド型支援ツールの OJT の提供

- 地域でコアとなり得る支援機関の育成(京都、福島の2地域でモデル事例を蓄積)
- 上記2地域でのモデル事例を含め 10事業者 27事例の OJT を提供

## 3. SPIS 有償展開

- 収益:6,024(前年度;6,598)千円 → 補助・助成事業の自己負担金および他事業経費へ
  - 売上:8,478 (前年度:9,978、予算 8,700)千円
  - 経費:謝金/旅費 1,937(千円)、保守費 330(千円)、広報費など 187(千円)
- 主な新規導入先、運用状況など  
 広く一般に向けた啓発活動からの新規導入相談は限定的。一方で目的やターゲットを明確にした活動には一定のレスポンスが得られており、改めて活動戦略の精緻化が求められる結果に。
- 事業運営方針
  - v Foster、SPIS 研究所、奥新システムの三者が協力しながら一体的なサービスを提供する体制を整備する。
  - システム利用料を改定し、新規導入案件より月額 10,000 円に統一する(100人までの利用の場合、100名超の利用は応相談)。

#### 4. 「業種・規模を問わない勉強・交流会」 in 東京

コロナ禍前まで継続開催していた「vfoster サロン」をリメイク

- 2023/8/4・10 ヤマト運輸 羽田クロノゲートにて 参加者 25 名
- 2023/10/20 スバル興業 夢の島マリーナにて 参加者 18 名
- 2024/1/26 ハピネット 駒形 CAビルにて 参加者 21 名
- 2024/5/15 東京ドームウイズ 東京ドームにて 参加者 31 名

#### 5. 広報活動

- vfoster ニュース 51-53 号の発行
- ホームページによる情報提供
- 会員募集パンフレットの改訂・配布

以上